平 成 29 年 度 学 校 自 己 評 価 表　（最終評価）

鳥取中央育英高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 （1）高い志と自ら学ぶ力 （2）確かな学力と公共の精神 （3）自らを律する力と他を思いやる心 （4）率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 （5）健やかな体と感動する心

今年度の重点目標	1 学力の向上 （1）授業規律と学習習慣の確立　（2）力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫　（3）「地域探究の時間」の充実 2 自主性と自律心の育成 （1）基本的生活習慣の確立　（2）生徒会活動、学校行事への積極的参加　（3）部活動の充実 3 コース制の充実とキャリア教育の充実 （1)コース制の充実　（2)キャリア教育の充実

評価基準　A：十分達成〔100%〕　B：概ね達成〔80%程度〕　C：変化の兆し〔60%程度〕　D：まだ不十分〔40%程度〕　E：目標・方策の見直し〔30%以下〕

年度当初					評価結果		
評価項目	具体項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学力の向上	授業規律と学習習慣の確立	○授業規律が確立されており、予習や復習、課題に取り組むなど学習習慣が身についている。 ○どの生徒も授業を大切にし、真剣に授業に取り組んでいる。 ＜指標＞アンケート「授業に集中して取り組めている」の評価AまたはBが80%以上。	○おおむね授業規律は良いが、始業時間に遅れる生徒や授業の用意が不十分な生徒がいる。 ○数は少ないが、授業の予習や復習をしていない生徒や、授業に集中しきれていない生徒が見受けられる。	○教師が授業開始時間を必ず守り、生徒が授業に遅れないよう指導を徹底する。教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習の具体的な内容をプリント等で指示し、提出させ確認する。また、気になる生徒については面談や関係職員と連携し対処する。 ○生徒が授業に集中できる授業作りを行う。	○授業規律は多くの教員が早めに教室に出向き、指導している。 ○予習復習の指導や面談指導は、時期的なものもあるがかなりできている。（冬休み中の成績不振者指名課外など） ○公開授業を行い、終了後教科会等で授業内容が検討されている。また、生徒が主体的に学習に取り組む授業研修も実施した。	B	○授業の重要性を、自らの進路実現と絡めて、生徒に考えさせる。特に2年生（および保護者）には、研修会を持ち、卒業生から在校生へ体験談という形で話を聞く機会も持つ。 ○研修会で得た手法を教科会で共有し、積極的に取り入れ、授業改善を図る。 ○成績評価をする際の考査点と授業点（平常点）の割合を見直し、生徒にも周知して取り組み姿勢の改善を促す。
	力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫	○教科の基礎基本が定着しており、学習効果が高い授業により、学力を高めている。 ○授業が工夫されており主体的に学習に取り組んでいるので、学ぶ力が高い。 ＜指標＞アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AまたはBが80%以上。	○生徒の基礎力に差があり、その定着に努力している。 ○授業の工夫がなされ、生徒の学力が十分に定着できるよう努力をしている。	○授業中の発問や内容を絶えず検証し、授業力の向上に繋げていく。 ○授業と並行して基礎力を高めるために、生徒一人ひとりの学力を見極め、個別の課題を与えていく。 ○個別指導等により、弱点の強化を行い、その上で、授業内容を高めていく。また、それらの内容については各教科会や校内の委員会で検証していく。	○授業力の向上については、研修会で学んだことが逐次授業に生かされている。 ○考査と考査の間の課題の課し方については、全教科にわたって検討中である。 ○冬休み中の成績不振者指名課外は徹底して実施した。また、年度末考査前には成績不振者を集めての学習会が1，2年とも計画されている。	B	○教科および学年で成績不振者の面談を行い、取り組みの改善を促す。また、長期休業中の成績不振者課外も継続して実施する。 ○校外模試の前に成績上位者に向けた課題等の個別指導を行うとともに、常日頃から特進コースをはじめとする上位層の指導を検討し、特徴化を推し進める。
	「地域探究の時間」の充実	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっている。 ○「地域創造ハイスクールサミット」を開催し、多くの学校が参加・観覧し、研究協議が充実する。 ○探究力、分析力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めている。 ＜指標＞地域創造ハイスクール・サミットへの参加校・観覧校、観覧者がこれまでより増え、提言も深まり、アンケートで研究協議の充実が評価されている。また、「地域探究の時間」の研究発表での発表内容、プレゼンテーションなどの質が高まっている。	○1年次での「地域探究の時間」オリエンテーション授業等を通じて、探究学習の手法や協同学習の経験を積んでいる。 ○生徒は、地震の影響で「地域創造ハイスクールサミット」を経験しておらず、イメージが出来ていない可能性がある。 ○今年度より「地域探究の時間」で身につけたい力（TMT）を明確にし、評価基準表（ルーブリック）で評価することにしている。	○地域の講師の方々と連携し、フィールドワーク等の一次データを重要視した教育活動を促す。また、学校と地域がお互いの強みを活かした教育活動となるよう展開する。 ○プレゼンテーションまでの流れを意識し、計画的な教育活動を行う。また、サミット実行委員会や生徒実行委員会を早期に立ち上げる。これまでの反省を活かし、生徒討論会や生徒交流会を充実させる。 ○TMT評価基準表を用いたレポートを活用し、生徒にも目標とする姿を示しながら「地域探究の時間」を展開する。また、教員・講師共に、この時間における重点項目を意識した教育活動を行う。	○地域の講師との連携を密に行い、フィールドワーク学習の回数を重ねるごとに、学びに主体性が出てきた。毎時間のレポートから、北栄町に対する関心が高まっている様子が見られた。 ○「地域創造ハイスクールサミット」実行委員会（生徒）の立ち上げが遅かった。 ○毎時間のルーブリック式レポートから、各能力育成を意識した活動が行われ、少しずつ各能力を高めている様子が見られた。 ○ハイスクールサミットの会場をわけることで、生徒にも負担がかかった。天候もこの時期は仕方がない部分はあるが大変だった。	B	○全体的に取り掛かり（1年、年度末には班分け等を進めていく）グループ発表準備等の時間を確保する必要がある。 地域の講師との連携を継続させ、より一層北栄・琴浦町への興味関心を引き出す。 ○実行委員会において具体的な計画を立て漏れのないように準備をしていく。今回部活動・委員会の一部を使ったが全体が活動できるよう考える必要がある。 ○校内発表会終了後にアンケート調査を行い、本活動前後での生徒の各能力（TMT）の育成について分析を行う。 ○ハイスクールサミットの時期・会場・内容について検討する必要がある。
自主性と自律心の育成	基本的生活習慣の確立	○生徒の基本的生活習慣が確立されており、マナーやモラルを守って落着いて生活できている。 ＜指標＞問題行動発生件数の減少。服装指導等指導回数の減少、遅刻者数の減少。	○昨年度は、服装の指導や問題行動に対する指導を行う場面もあった。今年度は基本的生活習慣の確立・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取り組もうとしている。	・5Sの徹底。（整理、整頓、清掃、清潔、躾） ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ○教室や共有の場所での整理整頓を徹底する。 ○SHRや学年集会などでタイムリーな指導を行う。	○校内規定の遵守についてはおおむね良好である。認識の甘い生徒もあるが、遅刻は昨年より減少しスマホの使用についての指導も改善傾向にある。 ○5Sの励行により、教室整備もやや改善傾向にあるが、クラスや場所によって差がある。 ○公共マナーの指導も継続し、地域からの苦情も減ってきている。	B	○校内規定と道徳的観点をあらためて指導することで、徹底させる。そのことにより、5S等の必要性、ルール、マナーを守ることを理解し、物事に対する考えが改善され、基本的生活習慣の確立に近づけるようにする。
	生徒会活動、学校行事への積極的参加	○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を高め、人間力を向上させている。 ○どの生徒も学校行事に積極的に関わり、達成感を得ることで、他者との協調性や思いやりを身に付け、学校生活を有意義に過ごすとともに、人間力の向上が見られる。 ＜指標＞アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AまたはBが80%。また、アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AまたはBが85%以上。	○生徒会執行部が「北栄町高校生議会」に参加するなど、応援団リーダー・各委員会活動も含め、主体的に参加し、充実した活動に取り組む生徒が徐々に増えている。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が中心となり、全校生徒、特に下級生をよく指導し、運営することが出来ている。	○生徒会執行部が生活委員会・環境委員会などと連携し、自治活動を活性化する。 ○生徒会執行部・育英祭実行委員から企画運営に関わる説明を丁寧に行い、各生徒が自分の務めを自覚し行動できるようにする。	○生徒会執行部は、生徒会顧問を交えた話し合いなどを通じ、生徒総会・球技大会の運営をすることができた。また、生活・環境委員会と連携し主体的に活動することができた。 ○育英祭実行委員は、部門担当職員の協力の下、全校をよく指導し育英祭全体を成功に導くことができた。来年度育英祭実行委員も、今年度の反省を元に新しい育英祭を企画している。 ○「学校行事に積極的に参加している」・「本校の学校行事は充実している」のAまたはBの比率はそれぞれ84%・83%であり、ほとんどの生徒が主体的に学校行事に関わっていることが分かる。	B	○引き続き生徒会執行部を、生徒会行事の運営や生活委員・環境委員との連携が主体的に行えるよう指導する。 ○来年度育英祭の実行委員を中心として、本年度の各部門やクラス、部門担当職員の反省を元に来年度の取り組みについて計画を仕上げていく。
	部活動の充実	○全校生徒が部活動に積極的に参加し、活発で質の高い活動により、県大会優勝など高い実績を上げている。 ＜指標＞県大会優勝6部。全国大会出場5部。	○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。昨年度は部活動加入率が92%。 ・県大会優勝は団体が（4）・個人が（16） ・全国大会入賞は団体が（4）・個人が（8）	○定期的に部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをする。（総体明け・夏休み明け・新人戦明け） ○生徒会執行部・応援団を中心に各部の活動を応援するとともに、結果についても広く全校に広報していく。 ○県内外の学校やその他機関との交流により、指導法を学ぶなどし、競技力や技術力の向上を図る。	○部活動の加入率は、1年が100%、2年が93%、3年が92%であり、多くの生徒が部活動に参加している。 ○応援団リーダーは、4月の応援歌練習を始め、壮行会・高校野球の応援など全校をよくまとめ活動することができた。 ○多くの部活動が県内外の学校や機関と交流し、競技力や技術力の向上を図り、県大会団体優勝4部、全国大会への出場は8部となった。	B	○部活動の加入については、学事支援システムを活用して引き続きリアルタイムで確認を行い、積極的な部活動への参加を促す。
コース制の充実とキャリア教育の充実	コース制の充実	○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬し、意識レベルが高く、部活動はもとより学校生活において模範となる生徒を育成している。 ○体育コースは高い競技力と実績を活かして、卒業後も次のステージでも活躍するために上級学校等へ進学する生徒を育成している。 ○普通コースは、上級学校への進学等、進路実現を果たすための学力と人間力をしっかり身に付けている生徒を育成している。 ＜指標＞学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し、企画運営なども自主的に行なう生徒が増えている。また、国公立大学　10%以上、私立大学20%以上、就職率100%の進路実現を達成する。	○体育コースの生徒が、部活動のみならず、学校生活においてもリーダー的な役割を果たしつつある。 ○体育コースの上級学校進学者は、例年半数程あるが、そのうち競技を継続する生徒は若干名である。 ○国公立大学現役合格数が昨年度末で前年度比2．5倍と特進クラス初年度としていいスタートを切ったが、さらに学校全体の取組みになるよう改善が必要である。 ○進路面談等きめ細かい指導などで安易な進路決定をしない雰囲気も生まれ、普通コースの充実も進みつつある。	○体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。 ○体育コースの取組である「異年齢交流」や「各種実習」において人間性や協調性を養い、競技力向上にも繋げていく。 ○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見い出す指導と、将来、指導者となる人材の育成をする。 ○特進クラスの実質化に取組み、指導が学校全体の取組みとなるよう改善を進める。特に、教材、進度、面談などきめ細かい指導の充実を図り魅力あるクラスにする。 ○選択科目の見直しを図り、進路希望のニーズに応えられるようにする。	○4月当初の体育コースオリエンテーションで、体育コースの一員としての自覚を高めスタートできた。 ○各種交流や実習を通じて、人間性や協調性は徐々に養われてきており、これらの経験が生かされ、競技力向上や将来の進路にも繋がりつつある。 ○特進クラスの実質化、特徴化の取り組みは色々なところで進められているが、今年度の国公立大学推薦AO現役合格数に限定すると減少した。 ○選択科目等については、来年度から3年の理系を2類型に分け、よりきめ細かい指導ができるように改編した。	B	○コース集会を開き、体育コースが部活動や学校生活において模範となる生徒となるよう、リーダーとしての意識をさらに高めるための指導を行う。 ○交流や実習において計画・立案などを含めた準備が生徒主体に活動できるよう指導していく。 ○継続して特進クラスの指導の特徴化を進める。 ○31年度以降の教育課程の改編で、より効率的・実質的な編成を進めるとともに、魅力的なコースとして中学生・保護者にアピールしていく。
	キャリア教育の充実	○体系的なキャリア教育が進められており、低学年から進路を考えることが出来る。 ＜指標＞アンケート「明確な進路目標を持っている」の評価AまたはBが80%以上	○アンケート結果は概ね指標を満たしている。しかし実態として、目標を低く設定する生徒や目標達成へのアプローチがイメージできず、具体的な行動に移せない生徒も見受けられる。	○生徒の視野を拡げ、早期に具体的な将来設計を描かせるため、それぞれの時期における指導テーマを明確にし、それに沿って組織的な進路指導を行う。 ○適切な目標設定をさせるため、生徒の志望や想いを引き出しつつ、具体的な目標モデルを提示するような進路面談を行う。	○各学年とも、進路目標に応じた科目選択、高い志望の維持、学習意欲の向上、将来を考えるための刺激など、それぞれの時期に応じた進路指導を行うことができた。また、その後、各担任を中心に面談指導を行い、目的の達成へ活かしていくことができた。 ○模試結果を生徒へフィードバックする際において、ポイントを絞るなど職員の意識共有を図り、進路面談の中に活かしていくことができた。	B	○特に2年次については、2学期中盤より志望校の考察というテーマに向けて、進路志望調査やSTと、進路面談とを折り合わせていく。1年次は1学期STでの体験を適宜織り交ぜながら進路面談を行い、具体的な目標をもたせる指導を強化する。 ○進路検討会以外にも、進路面談の際、留意すべきことを共有する機会を持ち、統一感のある進路面談を実施していく。